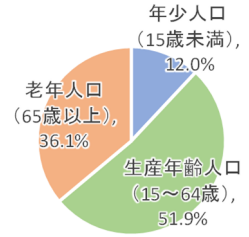
1－01

浜　坂（はまさか）

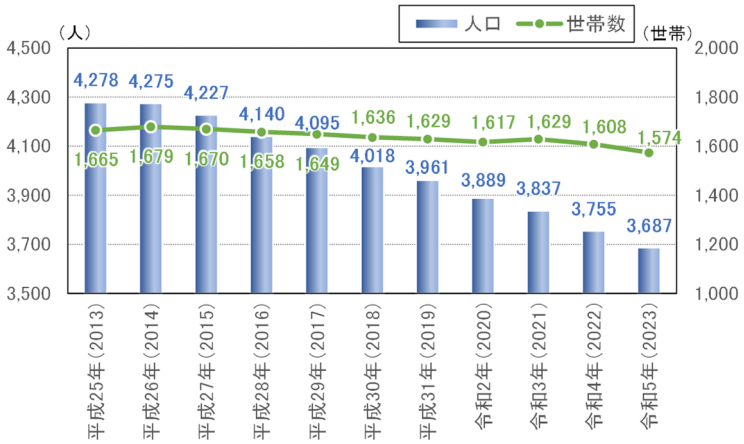
人口・世帯数等（令和５年４月）

人　　口	3,687 人
世 帯 数	1,574 世帯
高齢化率	36.1 %

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移（過去10年間）



区域の概要

立　　地　集落は、日本海の波によって形成された砂州と、岸田川が日本海に注ぐ沖積平野に位置する。集落の南側をJR山陰本線と国道178号が東西に並走する。

地名由来　地名の由来は、『ひょうごの地名』（吉田茂樹著）では、内陸から浜に出るところで、ゆるい下り坂があったためとしている。また、天平18年（746）に行基菩薩が諸国行脚の際、二方浦曲（今の浜坂海岸）に上陸し、その東南に大御堂（清泉寺・満願寺の前身）を建てて法務修験道場とし、浜坂と名付けたという伝説も伝わる（『浜坂町史』）。

歴 史 等　近世の浜坂村は、慶長10年（1605）因幡国若桜藩と旗本宮城氏の相給、元和3年（1617）旗本宮城氏知行、正保元年（1645）幕府領、寛文8年（1668）豊岡藩領、享保12年（1727）からは幕府領となった。宝暦10年（1760）の村明細帳によれば、家数469・人数1,783。天保5年（1834）の『但馬国郷帳』（天保郷帳）の村高は576石余。農業や漁業の他、幕府領となった享保12年以降は岸田川流域の商業地として、廻漕業・酒造業などで栄えた。特に幕末～明治中期にかけて浜坂針が盛んに生産され、浜坂名物「みすや針」の名で各地に売り出され、全国に知られるようになった。現在、ダイヤモンド針、レコード針などの製品として受け継がれている。

明治22年（1889）東浜村の大字となり、明治24年（1891）からは浜坂町の大字となる。明治24年（1891）の戸数774、人口は男1,920・女1,962。

これまで把握している文化財

文化財の件数　209 件　　**（うち指定等文化財**　21 件）

大分類	中分類	小分類	把握件数			指定等
有形文化財	建造物	建築物	34	43	139	4
		石造物	2			1
		工作物・その他の構造物	7			1
	美術工芸品	彫刻	8	96		2
		絵画	5			1
		工芸品	47			2
		書跡・典籍	6			1
		古文書・歴史資料・考古資料	30			4
無形文化財		音楽	2	5		0
		演劇	0			0
		工芸技術	0			0
		その他の無形文化財	3			0
民俗文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	17	24	32	0
		祭具	3			1
		民具	0			0
		その他の有形の民俗文化財	4			0
	無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	6	8		2
		民俗技術	0			0
		食文化	0			0
		民間説話・俗信	2			0
		その他の無形の民俗文化財	0			0
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	8	20	31	0
		古墳・その他の墓	7			0
		城館跡・寺社跡	0			0
		街道・古道等	1			0
		戦争遺跡	1			0
		その他の遺跡	3			0
	名勝地	山岳・高原・丘陵	0	5		0
		海岸・海浜・島嶼	1			0
		河川・滝・渓谷・湖沼	0			0
		公園・庭園	0			0
		その他の名勝地	4			0
	動物・植物・地質鉱物	動物	0	6		0
		植物	5			2
		地質鉱物	1			0
文化的景観		生活・生業・風土により形成された景観地			1	0
伝統的建造物群		宿場町・城下町・農漁村等			1	0

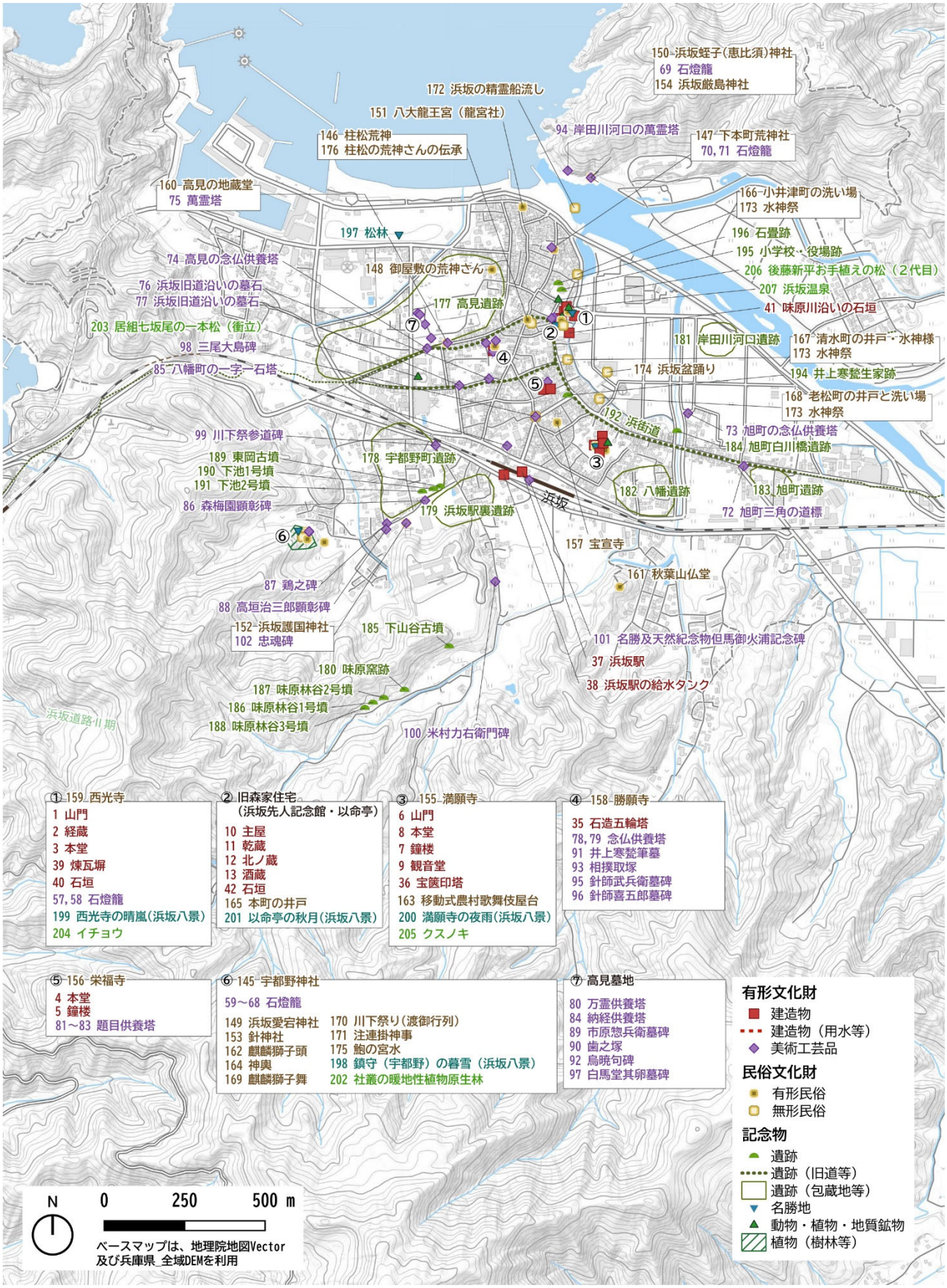
宇都野神社

川下祭り（麒麟獅子舞）

味原小径

※人口・世帯数は住民基本台帳（令和５年４月現在）による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

1－01 浜坂

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	西光寺山門	江戸時代後期の建築。平成 19 年（2007）改修。木造 2 階建、瓦葺。 県指定景観形成重要建造物
	2	西光寺経蔵	江戸時代後期の建築。木造平屋建、瓦葺、宝形造り。 県指定景観形成重要建造物
	3	西光寺本堂	江戸時代後期の建築。木造平屋建、瓦葺。７代目中井梅次正次作。 県指定景観形成重要建造物
	4	栄福寺本堂	文久 3 年（1863）再建。木造平屋建、瓦葺。
	5	栄福寺鐘楼	昭和 16 年（1941）再建。木造平屋建、瓦葺。
	6	満願寺山門	大正 8 年（1919）の建築。木造平屋建、瓦葺。
	7	満願寺鐘楼	宝暦年間（1751～1764）・昭和 30 年（1955）改修。木造平屋建、瓦葺。
	8	満願寺本堂	安政 5 年（1858）再建。木造平屋建、瓦葺。
	9	満願寺観音堂	明治 26 年（1893）再建。木造平屋建、瓦葺、宝形造。
	10	旧森家住宅（浜坂先人記念館以命亭）主屋	通り沿いの前庭に対して玄関を開き、西面して建つ。木造 2 階建、切妻造桟瓦葺で、北半部の棟が一段下がり、南寄りを通り土間とし、北に 3 列 3 行の座敷をもうけ、三方に縁をめぐらし、細部に繊細な意匠をみせる。正面は上下階とも格子をたて、風格のある外観である。 国登録有形文化財、県指定景観形成重要建造物
	11	旧森家住宅（浜坂先人記念館以命亭）乾蔵	主屋の北西に位置し、桁行 6.1m・梁間 4.6mの土蔵造 2 階建、切妻造、置屋根形式の桟瓦葺で、東妻に庇を付け、戸口がある。漆喰仕上げで、西・北面は高く押縁下見板張、南面は腰海鼠壁、2 階の東妻面には庇付の窓を対で並べ、特徴的な外観である。 国登録有形文化財、県指定景観形成重要建造物
	12	旧森家住宅（浜坂先人記念館以命亭）北ノ蔵	敷地北辺、乾蔵の東側に建つ。桁行 6.0m・梁間 4.1mの土蔵造 2 階建、切妻造、置屋根形式の桟瓦葺で、南面に両開戸を吊り、周囲は漆喰仕上げで、高く押縁下見板を張る。乾蔵と統一的な外観にまとめられ、敷地北辺の歴史的な景観を形成している。 国登録有形文化財、県指定景観形成重要建造物
	13	旧森家住宅（浜坂先人記念館以命亭）酒蔵	主屋土間の後方に東西棟で建つ。桁行 16m・梁間 6.8mの土蔵造、切妻造、置屋根形式の桟瓦葺で、北面に出入口を設け、外壁は南面を竪板張、他を下見板張、上部は漆喰仕上げとし、虫籠窓を設けている。登梁による架構により広い内部空間を造る大型の土蔵。※現在は 2 階床板を撤去 国登録有形文化財、県指定景観形成重要建造物
	14	田中家住宅主屋	江戸時代後期の建築。木造 2 階建、瓦葺。
	15	田中家住宅蔵１	江戸時代後期の建築。土蔵造 2 階建、瓦葺。
	16	田中家住宅蔵２	江戸時代後期の建築。土蔵造 2 階建、瓦葺。
	17	田中家住宅蔵３	江戸時代後期の建築。土蔵造 2 階建、瓦葺。
	18	上島家住宅蔵	明治時代の建築。土蔵造 2 階建、瓦葺。
	19	山本家（分家）住宅主屋	明治時代の建築。木造 2 階建、瓦葺。戸田屋山本家。
	20	山本家（本家）住宅主屋	明治時代の建築。木造 2 階建、瓦葺。戸田屋山本家。
	21	山本家（本家）住宅蔵	明治時代の建築。土蔵造 2 階建、瓦葺。戸田屋山本家。
	22	小林家住宅主屋	明治時代の建築。木造 2 階建、瓦葺。
	23	岡田家住宅主屋	明治時代の建築。木造 2 階建、瓦葺。
	24	奥田家住宅	明治時代の建築。木造 2 階建、瓦葺。（針工場宅）
	25	下雅意家住宅	明治時代の建築。木造 2 階建、瓦葺。
	26	丸山家住宅	明治時代の建築。木造 2 階建、瓦葺。

分類	番号	名称	概要
建築物	27	木村家住宅主屋	明治時代建築。
	28	松岡家住宅	昭和前期の建築。町家建築。
	29	宮本家住宅	昭和前期以前の建築。町家建築。
	30	岩永家住宅	昭和前期以前の建築。町家建築。
	31	丸谷家住宅	昭和前期以前の建築。農家建築。
	32	岡崎家住宅	建築年代は不明。町家建築。
	33	久邇宮別荘（母屋）	昭和 4 年（1929）から久邇宮家が諸寄に避暑で来られるようになり、翌年、諸寄の廻船問屋「東藤田家」が塩谷海岸に別荘を建ててお迎えし、昭和 14 年（1939）まで使われた。昭和 33 年（1958）ころ浜坂に移築された。床の間や欄間の造りなど、往時の面影が残る。
	34	久邇宮別荘（台所）	
石造物	35	石造五輪塔	江戸時代の初めに京都の角倉から浜坂に移り住み、元和元年（1615）に妙経庵（現在の栄福寺）を建立した箔屋上島喜左衛門宗徳を祀る塔（墓）。塔には、宗徳が亡くなる寛永 19 年（1642）より前の寛永 4 年（1627）の年号が刻まれており、生前に供養した逆修塔である。塔の石垣の間から写経した小石が出でおり、一字一石の納経も行われたことが分かっている。 町指定文化財
	36	満願寺の宝篋印塔（1775 年建立）	宝暦 5 年（1775）正月 15 日建立。切石二重二段の上にさらに一段を積み上げ、その上に反花座をおく。この基壇の積み上げようは、経文に説くところの利益を衆生に施すために、塔をより高くして、塔の日影を少しでも長大にしようとしたものと思われる。良質の花崗岩を用いているため、年紀の割に新しく見える。塔の高さは基礎以上 260cm、地上全高 500cm。
工作物・その他の構造物	37	浜坂駅	明治 44 年（1911）11 月 10 日、岩美-浜坂間が開通して営業を開始。翌 45 年（1912）3 月に山陰東線と連結するまでの約 4 か月は終着駅であったため、構内には給水塔や転車台、石炭置き場などが設けられていた。このうち給水塔が現存する。大正 5 年（1916）には神崎駅（現尼崎駅）の跨線橋を移設したが、昭和 42 年（1967）に地下道ができて現存しない。
	38	浜坂駅の給水タンク	かつてＳＬが活躍した時代に、現在の JR 山陰本線を走る機関車に水を補給するため、明治 44 年（1911）に浜坂駅に設置された煉瓦造の給水塔。戦中、戦後も役目を果たしたが、動力車の近代化により、昭和 44 年（1969）に廃止された。現在は蔓性植物に覆われている。
	39	西光寺の煉瓦塀	JR 山陰本線の香住-浜坂間は、明治 44 年（1911）難工事の末、桃観トンネルが完成し、翌年 3 月 1 日に開通。この工事で亡くなった朝鮮半島出身の労働者の方々を民族の区別なく弔った西光寺住職に対するお礼として、関係者が工事で余った煉瓦を持ち寄り築造された塀である。長さ約 25m、高さ 1.5～2m、坂道にあわせて階段状になっており、下部は特に難しく手間もかかるフランス積で積まれている。中央部は一段高く積んで出入り口を設けており、トンネルを連想させるアーチ型を描いている。 県指定景観形成重要建造物
	40	西光寺石垣	江戸時代中期の築造。平成 19 年（2007）一部補強。石造、延長 137m。 県指定景観形成重要建造物
	41	味原川沿いの石垣	江戸時代中期～昭和初期・戦後のさまざまな時代の石垣が続く。西光寺周辺には、江戸時代の野面積み、算木積み、ごぼう積みなどがあり、川上に向かって、旧家の立派な谷積み、亀甲積みなどの様式を見ることができる。
	42	旧森家住宅（浜坂先人記念館以命亭）石垣	敷地北辺から東辺に築かれた石垣で、高さ 2m前後、折曲げ延長 164mを測る。北辺中央部と西寄りは野面積みで、中央部は西寄り部分よりもやや新しく、隅角部の算木積も整っている。北辺東寄りと東辺は大正元年（1912）の築造となる間知石積みで、舟着場と石段を構える。 国登録有形文化財、県指定景観形成重要建造物
	43	山本家（本家）住宅塀	明治時代の板塀。戸田屋山本家。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	44	木造十一観世音菩薩立像	満願寺に安置されているクスの木造りの高さ 2.9mの十一面観音菩薩立像。寺伝によると、天平年間（729～749）に行基が諸国を行脚した時、浜坂を訪れ、木造十一面観音菩薩立像を刻み、大御堂（満願寺の前身）に安置したと伝えられるが、平安時代後期の作と思われる。 町指定文化財
	45	四天王像	満願寺に安置されているヒノキ材の寄木造りによる高さ 1.6～1.8mの木造四天王像。甲冑の造りや彫り方、下裳の褶の表し方、体躯の造りなどから、鎌倉時代～室町時代の作と思われる。 町指定文化財
	46	満願寺の十一面観音像	満願寺の本尊。行基の作と伝わるが、平安時代中～後期の作品である。
	47	満願寺の釈迦如来像	満願寺の釈迦如来像は、江戸時代の物と思われるが、満願寺には行基の作と伝えられている十一面観音像や四天王像が安置されている。
	48	秋葉権現	秋葉山仏堂の中に安置されている秋葉権現（火の用心の守り神）。胎内銘に、安永 2 年（1773）11 月、大仏師竹田左門作とあり、天保 4 年（1833）に居組村の仏師田中藤蔵が再興。世話人に針金業を営む者の名が見られ、浜坂の針金業や縫針業とも関係が深いと考えられる。
	49	宝宣寺の阿弥陀如来像	宝宣寺の本尊。江戸時代の木造仏像と思われる。
	50	勝願寺の阿弥陀如来像	勝願寺の本尊。本堂は安永 8 年(1779)の大火で焼失しているため、それ以降の江戸時代の作と思われる。
	51	西光寺の阿弥陀如来像	西光寺の本尊。江戸時代の木造仏像と思われる。
絵画	52	法然上人画像・善導大師画像	勝願寺に所蔵。法然上人画像は作者不明であるが、壮重で温和な画風から室町時代初期の作と思われる。善導大師画像も作者不明であるが、筆使いや色彩から同様に室町時代初期の作と思われる。 町指定文化財
	53	井上寒甃法眼の禅画	浜坂の素封家児島屋に生まれた井上寒甃は、安政の末頃に京都相国寺で修行を重ね、詩書を研鑽し、禅道にも没入した。法眼の位に進み、その画も飄逸で禅味に溢れ、文人画というより禅画とも称すべき作品を残している。晩年は但馬に帰って書家に専念し、好んで大筆の宝珠の図を描いた。
	54	谷角日沙春の絵画	諸寄に生まれた谷角日沙春は、京都に出て菊池契月に入門し、大正 7 年（1918）の文展に初入選した。当初は好んで遊里女を描いたが、昭和初期には現代風な女性像が多くなる。戦後は画壇と断絶して前人未到の直線画を創作し、晩年は仏画に専念して多くの名作を残した。文化財センターに作品を所蔵。
	55	藤田威の絵画	文化財センターに作品を所蔵。
	56	満願寺大御堂の天井画	幕末から明治期の四条派歌人、田中雪渓による天井画。満願寺大御堂は明治 32 年（1899）に完成した建物で、雪渓 60 歳代の作品である。
工芸品	57	石燈籠	西光寺の参道脇に位置する。寛政年間（1789～1801）に和泉屋小林助右衛門が寄進した石燈籠。碑文は摩耗のため不明。 町指定文化財
	58	西光寺の石燈籠（江戸時代末頃建立）	江戸時代末頃か明治初期の建立と伝わる。石材は地元産の戸田石と伝わる。截頭円錐形の竿で、但馬では他に類例を見ない。中台・火袋は昭和 10 年（1935）頃の後補と伝わる。竿の後ろに「道敷石」とあり、和泉屋儀平他 2 人によるこの燈籠と参道敷石の寄進を記念して銘を刻したとされる。
	59	宇都野神社の石燈籠（1765 年建立-1）	明和 2 年（1765）3 月建立。境内稲荷社前にある。松岡長右衛門寄進。花崗岩の四角型。中台以下とその上部は、石材は同質だが、大きさは一まわりも違うため、別物を寄せ合わせたものと考えられる。
	60	宇都野神社の石燈籠（1765 年建立-2）	明和 2 年（1765）6 月建立。稲荷社前の石燈籠と隣り合わせで建つ。花崗岩の四角型一対。

分類	番号	名称	概要
工芸品	61	宇都野神社の石燈籠（1767 年建立）	明和 4 年（1767）6 月建立。明和 2 年（1765）建立の石燈籠と同じ場所に並んで建つ。花崗岩の四角型一対。
	62	宇都野神社の石燈籠（1923 年建立）	大正 12 年（1923）6 月建立。東京浜坂会寄進。石材は玄武岩と思われる。二段間知石積の上に葛石を組み、その上に三重の基礎を積んで四脚をつけた受台がのる高燈籠。円形の露盤と請花と寶珠が一石でつくられている。
	63	宇都野神社の石燈籠（1926 年建立）	大正 15 年（1926）6 月建立。百姓若連中寄進。出雲石の四角柱。竿と中台の間に装飾と考えられる石が挟まれている。このような石をもつものは稀で、この地方の特色と考えられる。
	64	宇都野神社の石燈籠（昭和初期建立-1）	昭和初期の建立と思われる。石材は温石と思われるが、かなり硬質のものである。六角型。笠上端の降棟の部分に低平な 6 つの反花が鮮明に彫られ、軒口の上で巻き返って蕨手になるという稀なつくりの屋根である。
	65	宇都野神社の石燈籠（昭和初期建立-2）	昭和初期のものと思われる。森孝治寄進。石材は地場産のもの。六角型。竿は 2 個の鼓を縦に重ねたような形をしている。基礎の上端及び中台の下端には複弁の蓮花弁を彫る。
	66	宇都野神社の石燈籠（建立年不明-1）	竿には竹の幹を象ったと思われる石燈籠は少なくないが、これほど写実的なものは多くないと思われる。中節に竹の新芽が明瞭に彫られている。
	67	宇都野神社の石燈籠（建立年不明-2）	境内の池辺に据えられている雪見燈籠。装飾的ではないが、笠の直径が 150cm 以上あり、但馬の雪見燈籠の中では最も大きい。
	68	宇都野神社の石燈籠（建立年不明-3）	高麗式五重燈籠。石材は出雲石。点灯施設があるため燈籠とするが、石塔として扱うこともできる。寶珠部が相輪（7 つ）となっている。
	69	浜坂蛭子神社の石燈籠（1772 年建立）	明和 9 年（1772）9 月に松岡氏により寄進された石燈籠。傷みが大きく、左側の火袋、右側の火袋・竿等は修復・新調されている。
	70	下本町荒神社の石燈籠（1845 年建立）	弘化 2 年（1845）7 月建立。下本町荒神社（浜坂三柱神社）の向かって左側の石燈籠。正面に「奉燈」、右側に「小林助右衛門　若狭屋宗右衛門」、左に「鍋屋与一郎」、後面に「弘化二年巳七月吉日」と刻まれている。
	71	下本町荒神社の石燈籠（1864 年建立）	元治元年（1864）建立。下本町荒神社（浜坂三柱神社）の向かって右側の石燈籠。正面に「大神宝」、右側に「元治元子歳」、左に「講中」と刻まれ、台石に寄進者の名が刻まれている。
	72	旭町三角の道標（明治期建立）	浜坂旭町の三角交差点に位置する。「右 京 大阪」「左 丹後」と書かれており、建立年は不明であるが、「大坂」でないため幕末から明治初期の作と思われる。なお「丹後」は久美浜の役所（江戸時代後期の代官所・明治維新後の県庁）を意味する。
	73	旭町の念仏供養塔（1819 年建立）	文化 2 年（1819）4 月建立。念仏講中が浜坂村の東の出入口（旭町）に建てた石塔。泥岩の自然石型。高さ 152cm。正面の「南無阿弥陀仏」は是得上人の揮毫。現在は旭町ふれあい広場に移設されている。
	74	高見の念仏供養塔（1819 年建立）	文化 2 年（1819）5 月建立。念仏講中が浜坂村の西の出入口（高見）、諸寄道と芦屋道の分岐点に建てた石塔。安山岩の自然石型。高さ 210cm。
	75	高見の萬霊塔（1838 年建立）	天保 9 年（1838）4 月に村の有志によって建立。高見の地蔵堂の脇に建つ。天保の大飢饉の犠牲者を弔った万霊塔。砂岩質凝灰岩の自然石型。高さ 170cm。主碑銘は「萬霊」。
	76	浜坂旧道沿いの墓石（1660 年建立）	万治 3 年（1660）3 月 13 日建立の「清光常悟禅定門」墓石。勝願寺裏から高見に抜ける小道の分岐点に建つ。村口の道標的役割や守護的な意味を持つ墓石で、このあたりが当時の村口であったと思われる。
	77	浜坂旧道沿いの墓石（1813 年建立）	文化 10 年（1813）10 月 23 日建立の「木村新三郎之塚」。地堂墓地西の道端に建ち、施主は有名な相撲取「飛鳥野勇七」である。村口の道標的役割や守護的な意味を持つ墓石。
	78	勝願寺の念仏供養塔（1801 年建立）	寛政 13 年（1801）3 月 5 日建立。緑色凝灰岩の角柱型。高さ 250cm。主碑銘は「南無阿弥陀佛三界萬霊等」。安永 8 年（1779）4 月の浜坂村の大火の後、再び火災などの不幸のないようにと 15 世迎誉上人が建立したもの。

分類	番号	名称	概要
工芸品	79	勝願寺の念仏供養塔 （1863 年建立）	文久 3 年（1863）10 月建立。凝灰岩の角柱型。高さ 140cm。主碑銘は「南無阿弥陀佛」。岡山屋庄三郎が建てたもので、台石には「百万遍」と刻まれ、塔の横には「諸国納経塔」とも刻まれており、念仏供養塔であるとともに、諸国に参拝したお札を納める納経塔も兼ねていたものである。
	80	高見墓地の万霊供養塔 （1771 年建立･1864 年再興）	明和 8 年（1771）9 月に市原氏により建立。安山岩の自然石型。高さ 160cm。元治元年（1864）8 月に村中により再興。主碑銘は「萬霊塔」。
	81	栄福寺の題目供養塔 （1771 年建立）	明和 8 年（1771）10 月 13 日建立。花崗岩の角柱型。高さ 145cm。日蓮上人の 500 年遠忌に檀家の田辺宇兵衛・同新七・上嶋治良兵衛の 3 人が願主となって建立したもの。主碑銘は「南無妙法蓮華経」。
	82	栄福寺の題目供養塔 （1831 年建立）	天保 2 年（1831）3 月建立。凝灰岩の自然石型。高さ 150cm。日蓮上人の 550 年遠忌に建立されたもの。主碑銘は「南無妙法蓮華経日蓮大菩薩」。
	83	浜坂の題目供養塔 （1954 年建立）	昭和 29 年（1954）8 月 15 日建立。砂岩質凝灰岩の自然石型。高さ 140cm。主碑銘は「南無妙法蓮華経　海上安全」。かつては海岸通りにあったものを移設したものである。
	84	高見墓地の納経供養塔 （1799 年建立）	寛政 11 年（1799）2 月 4 日建立。泥岩質凝灰岩の自然石型。高さ 200cm。主碑銘は「奉納大乗妙典供養塔」。天下泰平・国土安穏を祈って建てられたもので、「行者了鉄」と左下に刻まれている。
	85	八幡町の一字一石塔 （建立年不明）	建立年不明。角礫凝灰岩の自然石型。高さ 180cm。主碑銘は「南無□□□□経一字一石塔」。現在は JA の脇に移設されている。
	86	森梅園顕彰碑 （1954 年建立）	明治 3 年（1870）に浜坂宇都野で私塾味道塾を開設して人材の育成に努めた森梅園の顕彰碑。昭和 29 年（1954）に味道館ゆかりの地である旧浜坂中学校玄関前に建立。昭和 55 年（1980）に現在地に移設された。
	87	鶏之碑 （1953 年建立）	昭和のはじめに井上鶏園を設立して浜坂の養鶏産業に大きく貢献した井上英太郎の顕彰碑。英太郎は昭和 28 年（1953）に農林大臣より表彰され、この碑は同年に建立されたものである。
	88	高垣治三郎顕彰碑 （1931 年建立）	漁獲法・製網法の改良や、丹後地方で行われていた竹輪・蒲鉾の製造方法の導入・技術改良を行い、旧浜坂漁港の改修や浜坂漁業組合設立の基礎を築くなど、初期の浜坂漁業の発展に貢献した高垣治三郎の顕彰碑。昭和 6 年（1931）に塩川菊松他 5 名が発起人となり、浜坂・芦屋の漁業者 144 名によって建立されたものである。
	89	市原惣兵衛墓碑 （1835 年建立）	天保 6 年（1835）建立。浜坂の縫針業の創始者である市原惣兵衛の墓碑。
	90	歯之塚 （1954 年建立）	大正 13 年（1924）9 月に松岡歯科を開設し、地域の保健衛生の向上に貢献した松岡一が、昭和 29 年（1954）にそれまで保管していた廃歯 50 万本を供養するために私費を投じて建立した碑。
	91	井上寒甃筆墓 （1868 年建立）	京都相国寺で禅の修行をし、多くの禅画や書を残した井上寒甃が、慶応 4 年（1868）にそれまで使った筆を供養するために建立した墓（塚）。
	92	烏暁句碑（墓碑） （1841 年建立）	天保 12 年（1841）建立。高見墓地に位置する。
	93	相撲取塚 （大和谷平右衛門塚）	寛政 2 年（1790）建立。勝願寺裏にあったとされるが、『ふるさと浜坂散歩みち　石造物編』では「不明」とされる。播州三木操座建立。
	94	岸田川河口の萬霊塔 （1848 年建立）	嘉永元年（1848）5 月建立。岸田川河口の港口、観音山に登る道の傍らに、港口の方を向いて建つ。故老の話によると、昔、沖に亀が流れており、元返って埋めたとのことであるが、海難事故か何かがあり、萬霊供養と海上安全を祈って建てられたものと思われる。碑文は「萬霊」。
	95	針師武兵衛墓碑	市原惣衛門が長崎からつれて帰ってきたという針師 2 人のうち、武兵衛の墓。
	96	針師喜五郎墓碑	市原惣衛門が長崎からつれて帰ってきたという針師 2 人のうち、喜五郎の墓。

分類	番号	名称	概要
工芸品	97	白馬堂其卵墓碑	嘉永 4 年（1851）9 月 16 日建立。文化 14 年（1817）7 月に江戸の玉蕉庵が出した「四海句双紙第二編」に作品がみられる其卵（七釜屋伊兵衛の分家・弥作の子）の墓碑。「麦醸全平信士」と刻まれている。
	98	三尾大島碑	昭和 5 年（1930）3 月建立。正面に「天然紀念物大島　濱坂東海岸　約四海里」と刻まれている。
	99	川下祭参道碑	川下祭の参道を示す石碑。正面に「川下参道　十一友会」と刻まれている。
	100	米村力右衛門碑	戦後、林業振興に尽くした米村力右衛門の顕彰碑。
	101	名勝及天然紀念物但馬御火浦記念碑	昭和 12 年（1937）10 月建立の記念碑。浜坂駅のホームに建つ。正面には「名勝及天然紀念物　但馬御火浦」と刻まれている。
	102	浜坂護国神社の忠魂碑	明治 39 年（1906）建立。
	103	相撲板番付	相撲板番付は、地方巡業相撲の時に作成されたもので。この板番付は、昭和 16 年（1941）と昭和 22 年（1947）に浜坂で開かれた地方巡業相撲の時に作成されたもので、第二次世界大戦前後に地方巡業が浜坂で開かれたことを裏付け、浜坂の相撲史を知る貴重な文化財である。 町指定文化財
書跡・典籍	104	紙本著色細字法華経	江戸時代前期に栄福寺の開祖上島喜左衛門宗徳が熱心な法華経の信者であったため、宗徳が沐浴斎戒して法華経二十八巻を書写したものである。 町指定文化財
	105	満願寺朝鮮通信使扁額「霊寶山」	第 10 次の通信使（延享 5 年（1748））写字官の玄文亀筆「霊寶山」の扁額。裏面の記録などによると、当時の住職月洲義白が大坂での通信使応接役を務めていた岸和田藩主岡部長著に依頼して玄文亀に本書を書いてもらったとされる。扁額は宝暦 12 年（1762）に檀家の協力を得て作成されたもので、全国に残る玄文亀筆の扁額としては唯一のものである。
	106	西光寺の扁額	井上寒甃書の扁額（山号額）「壽徳山」。西光寺は井上家の旦那寺である。
	107	以命亭の扁額	源君岳（松下烏石：江戸時代中期の京の書家。安永 8 年（1779）没）筆の扁額。七釜屋二代森与與右衛門は、元明元年（1781）に隠居し、母屋裏に隠居場「以命亭」を建てている。このため、その構想は隠居以前からもち、明和から安永年間に京都で揮毫してもらったことがうかがえる。
	108	栄福寺の六字名号	栄福字寺境内に「南無妙法蓮華経」と刻んだ天正 2 年（1574）・明和 4 年（1767）の自然石と、御影石の名号碑がある。
	109	宝宣寺の六字名号	蓮如上人の真筆と伝わる。
古文書・歴史資料・考古資料	110	湿板写真(1)	湿板写真は、19 世紀中頃にイギリスで発明され、わが国にはオランダ人によって伝えられ、明治前半頃全国に普及した。浜坂地域には、明治 8 年～29 年（1875～1896）に撮影された湿板写真が 52 枚残されており、特に下田家と道盛家の湿板写真は、当時の髪型や服装など、浜坂の様子を知る貴重な資料である。 町指定文化財
	111	湿板写真(2)	
	112	宇都野神社神額	宇都野神社の神額は、川下祭り（渡御行列）の由采・起源を裏付ける歴史的資料である。 町指定文化財
	113	道路基準標柱	明治 33 年（1900）10 月に建てられた浜坂から神戸・居組・湯村・村岡・湯島（城崎）までの距離を刻んだ木製の標柱で、浜坂本町に建てられていた。以前は記載されていた場所にも同様の標柱が建てられていた。 町指定文化財
	114	俳諧十百韻	安永 2 年（1773）に上梓された俳本。漢文序を養父の随順斉・千葉文明が、和文序は記名がないがおそらく同人が、跋文は関宮の雁行が書いている。旧温泉町では山肆（井上）、章花・素賤（竹田）、和且・千山（千原）、茶来・来応・志山（飯野）の 8 人、二方郡として村名不明の哥猿・鹿后の 2 人の名が見える。（個人蔵）

1－01 浜坂

分類	番号	名称	概要
古文書・歴史資料・考古資料	115	奉納巌山発句合送写印巻	照来・飯野村の巌山寺に村々の俳人が奉納した句集。しかし同寺に俳額はない。天明6年（1786）7月。願主は飯野社中と竹田村の岸苔で、撰者は近江の百載庵土来である。（個人蔵）
	116	老の柳	天明8年（1788）上梓の句集。編者は湯村の剡渓・柳水・百歩の3人で、新市の朱厓が序文、浜坂の淇水が跋文を書いている。（個人蔵）
	117	三日の月影	温泉の因山が、文化3年（1806）に新市の朱厓・千原の和且・浜坂の淇水の3人の友がこの世を去ったことから、二方を中心として、方々の人たちに呼びかけて追悼の句集として発刊したもの。（個人蔵）
	118	仲屋の知恩院宮御用絵符	酒屋とともに廻漕業を営んでいた浜坂村の仲屋は、京都知恩院と関係が深く、明和元年（1764）には名字帯刀を、安永2年（1773）には菊と葵の御紋付馬提灯を知恩院宮から下付されている。「知恩院宮御用絵符」の箱書のある桐箱には、十六葉の菊の御紋と葵御紋の型が保存されている。
	119	西光寺の棟札	西光寺再建棟札には「金拾両　上人周愚」とある。周愚は井上寒甃のことであり、井上家の旦那寺である西光寺の本堂再建にあたって、十両という大金を寄進したことがわかる。
	120	七釜屋森光孝文書	合計5,908点の森家の文書（平成3～8年度に分類・整理・目録作成）。年代は江戸後期から明治・大正期に及び、内容は森家家政文書、近世村方文書、近代村政文書、雑文書に大分される。森尚孝関係の文書には、日本による中国侵略政策の経済財政支配の様相を示す資料も含まれている。
	121	旧浜坂村近世村方文書・明治戸長文書	近世から明治初期にかけての合計703点（実点数1142点）の文書。旧浜坂村の庄屋村方文書として伝来してきたもの。
	122	森梅園の書籍等	浜坂先人記念館以命亭に作品を所蔵。
	123	篠原無然の書籍	諸寄基幹集落センターに作品を所蔵。
	124	前田純孝（翠渓）の歌集等	諸寄基幹集落センターに作品を所蔵。
	125	浜坂蛭子神社の棟札	「奉祭事代主命善応大潔守護処　延享二年丑三月二十六日遷宮」と記された棟札。
	126	大郷長文書	江戸時代から明治初期の浜坂村・酒造関係文書。
	127	下田潔文書	江戸時代の京極藩蔵米・廻船・酒造関係など浜坂村文書。
	128	井上克己文書	江戸時代の京極藩蔵米など浜坂村文書。
	129	仲山敦文書	慶安3年（1650）鯨訴状他・漁業・廻船関係文書。
	130	浜坂漁協組合文書	江戸時代から近世漁組合関係文書。
	131	中家安次郎文書	江戸時代村制度関係文書（身分制度）。
	132	松井鹿寿郎文書	天明7年（1787）体術（相撲）関係文書。
	133	中島昌彦文書	宇都野神社宮司中島家関係文書。
	134	田辺意之助文書	正徳4年（1714）鍛冶・針金・関係文書。
	135	道盛亀之助文書	江戸時代縫針取引関係文書。
	136	山本久和文書	幕末（弘化年間（1844～1848））の商工・縫針関係文書。
	137	田原喜代治文書	貞享元年（1684）浜坂村地詰帳」他、村文書。
	138	田中正巳文書（清富）	享保元年（1716）山論争訴状関係文書。（清富村）
	139	竹中家文書（鐘尾）	江戸時代から近世の鐘尾関係文書。文化財センター所蔵。

■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
音楽	140	浜坂漁師の木遣唄	大正初期まで、建造した和船の船出しに綱をひき、かけ声とともに歌った伊勢音頭調のしごと唄。船出しが動力化されるにおよんで、祝い唄として漁師が宴会で歌うようになった。 ※『ふるさとの唄（平成元年度版）』（平成 2 年、浜坂町公民館発行）p23 参照 ※『ひょうごの祝いうた・祭りうた』（昭和 51 年、兵庫県企画部文化局発行）参照
	141	わらべ唄（正月さん）	※『はまさかの民話（Ⅰ）』（平成元年、浜坂町公民館発行）p43 参照 ※『但馬海岸　但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和 49 年、兵庫県教育委員会発行）p191 参照
その他の無形文化財	142	縫針製造	江戸時代後期、農漁業ともにふるわず、村人の暮らしが困窮する中で、市原惣兵衛が長崎に留学の折、縫針製造に目をつけて職人 2 人を連れ帰り、縫針製造を始めた。「みすや針」は優良な針として、幕末から明治・大正とその名を馳せた。かつては、久斗山地方でとれる鉄が使用されたが、その後出雲の安木港から雲州鉄が海路で諸寄港に運ばれて使われた。炭などは当地で生産したものを使っていた。かつては手作業であったが、その後電化し、レコード針や千枚通し、押しピンなども製造するようになった。
	143	浜坂ちくわ	「浜坂ちくわ」づくりは、明治時代初期から現在まで受け継がれている。地元のトビウオ・アジなどを練り込んで作られる。トビウオのことを長崎から山陰にかけてアゴと呼んでおり、新鮮な生のアゴのすり身を使った“あご竹輪”をはじめとした各種竹輪は新温泉町の名産となっている。
	144	漁業（松葉ガニ、ホタルイカなど）	町内には浜坂港、諸寄港、釜屋港、居組港、三尾港（大三尾・小三尾）の漁港がある。新温泉町での代表的な漁法は「沖合底引き網漁」で、9 月から翌年 5 月末まで漁を行い、松葉ガニやホタルイカ、ハタハタ、エビ、カレイなどが水揚げされる。浜坂・諸寄漁港の松葉ガニ水揚げ量は日本一である。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	145	宇都野神社	祭神は大国主命、素戔嗚命、稲田女命。創立年月は不明。応永 21 年（1414）に社殿を再建し、近世には牛頭天王と称したが、明治 6 年（1873）に宇都野神社に社名を改め、同年 10 月に村社に列せられる。境内社には、二柱神社、三柱神社、八柱神社、依那神社、稲荷神社、針神社、愛宕神社がある。
	146	柱松荒神	荒神と道案内の神猿田彦を祀る。下本町の荒神さん（三柱神社）と御屋敷の荒神さんとともに、浜坂の三荒神として尊崇されている。大昔、この辺りは小島で、神功皇后が敦賀から長門に向かった時、二方浦のこの松に船を繋いだという柱松伝説がある。その後、この場所が庄境とされ、綱引が行われたと伝わる。近代社格は無格社。
	147	下本町荒神社	祭神は素戔嗚命。下本町の荒神といわれ、柱松荒神と御屋敷の荒神さんとともに、浜坂の三荒神として尊崇されている。由緒は明らかではないが、昔、この道筋は海からの入口として相当賑わったものと思われ、港に関係があると思われる。また、古老によると、浜和和泉屋との関係があるともされる。近代社格は無格社。８月２８日礼祭が行われる。
	148	御屋敷の荒神さん	柱松荒神と下本町の荒神さん（三柱神社）とともに、浜坂の三荒神として尊崇されている。
	149	浜坂愛宕神社	近代社格は無格社。かつては老松町に位置したが、宇都野神社の境内社となる。本殿左手に祀られている。

1－01 浜坂

分類	番号	名称	概要
信仰の場	150	浜坂蛭子（恵比須）神社	川向こうにあり、祭神は事代主命。延享 2 年（1745）3 月 26 日遷宮と記された棟札が残り、明和 9 年（1772）の浜坂村差出明細帳には「恵比須社一社」と記されている。ご神体像は、幕末の頃、中島土佐守の時に西の宮神社より分霊を勧請したものである。昭和 34 年（1959）1 月に、浜坂鯛縄戎講連中、漁業者の寄付により境内が大々的に整備され、基壇、鳥居、玉垣等がつくられ、石燈籠が奉納された。
	151	八大龍王宮（龍宮社）	祭神は綿津見豊玉姫命。元は字浜岡に妙見堂があり、漁業者の集会所として使用するとともに、龍宮を祀っていた。しかし、浜坂港の出入りが分からないため、浜町浜頭の土地二筆（現在の岡見の場）を大正初めに購入して移転した。昭和 3 年（1928）に同地に青年会館を建築し、龍宮社は床の間に厨子をつくって安置された。昭和 37 年（1952）に龍宮社の移築問題が起こり、その前方の土地に龍宮社を移転して現在に至る。
	152	浜坂護国神社	明治 39 年（1906）日露戦争の戦勝を期し、日清・日露戦死者慰霊のため、当時の浜坂在住の戦友が広く町内に寄付を求めて創建された招魂社。本殿屋根は檜皮葺であったが、風雪により雨漏り等も生じたため、大正 14 年（1925）に銅板に葺き替えられた。現在の鳥居は昭和 3 年（1928）、石鳥居に再建され、本殿・拝殿の犬走は稲葉社御影石で構造された。
	153	針神社	宇都野神社境内に位置する。製針業に関係する神社。
	154	浜坂厳島神社	近代社格は無格社。
	155	満願寺	臨済宗南禅寺派に属し、本尊に釈迦如来像が安置されている。創建年代は不明であるが、寛永 15 年（1638）光寂恵春禅師が荒廃していた堂を再興し、天和年間（1681～1684）正山崇仲禅師によって、大御堂（観音堂）があった現在の場所に移された。境内には大御堂に使われていた礎石が残り、その大きさから大御堂は壮大な建物であったものと思われる。
	156	栄福寺	日蓮宗久遠寺派に属する寺で、本尊に釈迦牟尼仏が祀られている。寺伝によると、江戸時代初め、京都の角倉から浜坂に移り住んだ箔屋上島喜左衛門宗徳が、元和元年（1615）元須弥堂屋敷（現在の寺町）に妙経庵を建立し、法華経を布教した。その後、寛永 12 年（1635）因幡国（現在の鳥取県）大宝山芳心寺の慈雲院日徳上人を開山として、寺号を「光徳山栄福寺」と改めたといわれている。栄福寺は、過去 3 回の大火で多くの古文書や宝物が焼失したが、江戸初期の「紙本着色　細字法華経」が現存する。
	157	宝宣寺	浄土真宗本願寺派の寺院。宝宣寺は貞享元年(1684)には道場として建立されていたことが確認されている。寛政 4 年(1792)に「宝宣寺」に改められた。蓮如上人真筆の六字名号がある。
	158	勝願寺	山号は通真山。浄土宗鎮西派に属する寺で、本尊に阿弥陀如来が安置されている。創建年代は不明であるが、天正 8 年（1580）に丹後国久美浜の本願寺から念誉上人が来た時、天台宗に属していた門陀堂を浄土宗に改宗し、元禄年間（1688～1704）、現在の場所に再建したといわれている。
	159	西光寺	浄土真宗の寺院。本尊は阿弥陀如来像。戦国時代の終わり頃、和泉屋小林仁右衛門が道場として建立し、寿徳庵と称した。明暦 2 年（1656）に本願寺から「西光寺」の寺号を受けて「寿徳山西光寺」と改めた。
	160	高見の地蔵堂	村口を守る地蔵堂。
	161	秋葉山仏堂	秋葉台西側の尾根上に栄福寺管理の秋葉山仏堂があり、中に秋葉権現、不動明王、稲荷経王菩薩像が安置されている。
祭具	162	宇都野神社麒麟獅子頭	現在、宇都野神社の麒麟獅子舞に使用されている獅子頭には、文化 14 年（1817）製作の墨書銘があり、指定されている獅子頭はその獅子頭よりも以前に使われていたもので、宇都野神社の麒麟獅子舞の起源を知る重要な資料である。 町指定文化財

分類	番号	名称	概要
祭具	163	移動式農村歌舞伎屋台	川下祭りの宵宮では、かつて４台の屋台が練りだされていた。屋台の練り出しが一時途絶える中で、屋台は寺の縁の下や分解されたまま民家に預けられたりしていた。昭和 50 年頃、京口 2 丁目の有志が思い出しながら屋台を組み立て、川下祭りの宵宮に再び賑わいをもたらした。日本に残る数少ない農村歌舞伎の移動屋台の一つである。
	164	宇都野神社の神輿	昭和 11 年（1936）を新調。八角の神輿は珍しく、伝承によると京都八坂神社より払下げと言われている。
その他の有形の民俗文化財	165	本町の井戸	昔から味原川は浜坂の人たちにとって大切な川で、川沿いには多くの井戸や洗い場が設けられ、洗濯や野菜の洗い場として、また飲料水としても使われてきた。水道の普及とともに埋められ、現在残るところは少なくなったが、今でも井戸の横に水神様や観音様がまつられ、大切にされている。
	166	小井津町の洗い場	
	167	清水町の井戸・水神様	
	168	老松町の井戸と洗い場	

■ **民俗文化財／無形の民俗文化財**

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	169	宇都野神社麒麟獅子舞	毎年 7 月中旬の 3 日間と 10 月 8 日の宇都野神社大祭で奉納される。辻の舞、中の舞、橘の舞がある。麒麟獅子舞は因幡と但馬の限られた地域に伝承されているが、二頭舞は但馬地方のみの独特の舞である。宇都野神社麒麟獅子保存会により伝承されている。 国指定重要無形民俗文化財（「因幡・但馬の麒麟獅子舞」として）
	170	川下祭り（渡御行列）	但馬三大祭りの一つとして長い歴史を誇る。毎年 7 月中旬の 3 日間、宇都野神社で行われる。江戸時代の中期に、浜坂が豊岡京極領から天領に変わったのを機に、京都八坂神社（祇園社）の大祭にちなんで行われたのが始まりと伝わる。2 日目の本祭りには、神輿や鉾などの出し物が町内を練り歩く「渡御行列」が行われ、浜坂県民サンビーチに設けられた「御旅所」では、麒麟獅子舞が奉納される。渡御行列では、家業繁栄、家内安全、商売繁盛を願う「獅子舞」「榊」「鉾」「神輿」などの屋台が巡行する。 町指定文化財
	171	宇都野神社の注連掛神事	隔年毎に 11 月 15 日に宇都野神社で行われる。当日、神職数名が集まり、午後 7 時頃、本殿その他諸々の建物に注連縄をかけ、社殿を祓清め、永遠の神の鎮座、御国宝錠を祈願する神事。通常舞人 4 人、太鼓 2 人で太鼓は胴長と締太鼓である。注連縄は舞楽奏上のうちに掛け、掛終わって一同拝殿に着座し、祓行事に続いて神楽が舞われていた。
	172	浜坂の精霊流し	8 月 15 日に行われる。先祖の霊を供養する行事として、清富の岸田川河口付近で行われる。灯籠は手作りで、夕暮れの川が漆黒に染まるころ大勢の人達が見守る中で、想い想いの願いを書いた灯籠と精霊を川に浮かべて流し送る。浜坂の風物詩となっていた。令和４年（2022）に中止。
	173	浜坂 水神祭	各井戸で行われる。
	174	浜坂 盆踊り	毎年 8 月 15 日の浜坂認定こども園（以前は浜坂北小学校）で行われる。以前は岸田川河口の「精霊船流し」の後、初盆の精霊を供養するために行われていた。また、15 日の地蔵盆にも各地区で盆踊りが行われている。
民間説話・俗信	175	鮑の宮水	※『浜坂町史』（昭和 42 年、浜坂町史編集委員会編集、浜坂町発行）p57 参照 ※『ふるさと浜坂シリーズ 1「ふるさと浜坂散歩みち」』（平成 4 年、浜坂町教育委員会発行）p63 参照
	176	柱松の荒神さんの伝承	※『ふるさと浜坂シリーズ 1「ふるさと浜坂散歩みち」』（平成 4 年、浜坂町教育委員会発行）p76 参照

1－01 浜坂

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	177	高見遺跡	弥生～平安時代の散布地。土師器、須恵器片が多数散布。
	178	宇都野町遺跡	縄文時代～近世の散布地。縄文土器片、須恵器片、土師器片等が多数散布。
	179	浜坂駅裏遺跡	奈良～平安時代の散布地。須恵器片・土師器片が多数散布。
	180	味原窯跡	古墳～奈良時代の生産遺跡。一部損壊。登り窯。須恵器片、炭片が散布。林道の断面に黒みを帯びた旧地表面が見られるが、林道建設のため消滅。
	181	岸田川河口遺跡	古墳～奈良時代の散布地。須恵器片数点が散布。
	182	八幡遺跡	古墳～奈良時代の散布地。須恵器片数点が散布。
	183	旭町遺跡	弥生時代の散布地。地下 1mのところから多数の弥生土器片が出土。
	184	旭町白川橋遺跡	古墳時代の集落跡。旧河道、木製品が出土。
古墳・その他の墓	185	下山谷古墳	古墳時代の古墳。横穴式石室（0.9×0.95m）の一部が残る。方形。
	186	味原林谷 1 号墳	古墳時代の古墳。林道拡張のため一部損壊。一辺 1m方形の石室が露出。
	187	味原林谷 2 号墳	古墳時代の古墳。林道拡張のため一部損壊。一辺 1m方形の石室が露出。
	188	味原林谷 3 号墳	古墳時代の古墳。土取りのため全壊、多数の石が散乱。
	189	東岡古墳	古墳時代の古墳。円墳。横穴式石室（0.8×1.8m）。高坏・蓋坏など多数の須恵器が出土。グラウンド建設のため全壊・消滅。
	190	下池 1 号墳	古墳時代の古墳。大刀や高坏・蓋坏など多数の須恵器が出土。グラウンド建設のために全壊・消滅。
	191	下池 2 号墳	古墳時代の古墳。大刀が出土。グラウンド建設のために全壊・消滅。
街道・古道等	192	浜街道	歴史的には「因幡道」「湯島道」とも呼ばれ、豊岡から鳥取間を結ぶ。江戸時代の浜街道を「古道」、明治時代の浜街道を「旧道」と呼ぶ。ルートはほぼ現在の国道 178 号に沿い、道幅は街中で約 2 間、平地は 1 間、山中では約半町であった。浜坂村・森秀助の『出雲紀行』や但馬国美含郡轟村・細田方斎の『因幡行日記』などの紀行文、伊能忠敬測量日記（第 5 次）などに浜街道が使われた記録が残る。久美浜代官が領内巡検のために浜街道を使ったことや、庶民も浜街道を使って往来していたことも知られる。
戦争遺跡	193	浜坂村東山台場	天保 13 年（1843）以降に久美浜代官所が設置したと思われるが、遺構は不明である。
その他の遺跡	194	井上寒甃生家跡	寒甃は文化 4 年（1807）、浜坂村の豪農「児島屋」に生まれた。生家の井上家は、現在の新町一帯の広大な屋敷に豪壮な邸宅を構え、浜坂村の政治的経済的支柱であった。明治 6 年（1873）に画家池田顕信が描いた井上家屋敷絵図には、母屋を取り囲むように米蔵が並び、村の子どもたちが学ぶ学習棟や松の大木の上にコウノトリが巣をかける様子も描かれている。
	195	小学校・役場跡	明治 17 年～大正 14 年（1884～1925）まで浜坂小学校が、昭和 12 年～昭和 60 年（1937～1985）まで旧浜坂町役場があった。
	196	石畳跡	味原川周辺は、かつては石畳の道であり、ユートピア横に面影を残す。

■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
海・海岸・島嶼	197	松林（白砂青松）	飛砂防備林として昭和 7 年（1932）から第二次大戦中にかけて植えられた松林。昭和 62 年（1987）には「日本の白砂青松 100 選」に選ばれている。
その他の名勝地	198	鎮守（宇都野）の暮雪（浜坂八景）	作者の森貞次は七釜屋七代孝一郎の次男、八代孝治の弟で、明治 16 年（1883）生まれ。近江八景にならい、浜坂八景をあげ、随筆『浜坂八景』を著している。
	199	西光寺の晴嵐（浜坂八景）	
	200	満願寺の夜雨（浜坂八景）	
	201	以命亭の秋月（浜坂八景）	

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

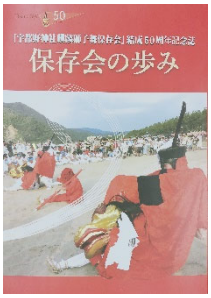
分類	番号	名称	概要
植物	202	宇都野神社社叢の暖地性植物原生林	宇都野神社の社殿を覆う森には、目通り 5mのスダジイをはじめ、スギの大木、サカキ、クスノキ、モチノキ、ツバキなど多数の植物が繁殖している。兵庫県レッドリスト（自然景観）では C ランク（市町村的価値に相当するもの）。 県指定天然記念物
	203	居組七坂尾の一本松（衝立）	かつて旧七坂八峠の但馬と因幡に国境にそびえた高さ約 25mのクロマツの巨木。推定樹齢は 350 年を越すと言われていた。居組港に帰る船や、因幡と但馬を行き交う人々の目印にもなったという。昭和 57 年（1982）にマツクイムシの被害を受けて伐採。根の部分が標本（高さ 2.5m、横 2.2m、根回り 8m）として新温泉町役場庁舎の玄関に展示されている。 町指定文化財
	204	西光寺のイチョウ	西光寺山門脇にある幹回り 482m のイチョウ。
	205	満願寺のクスノキ	満願寺境内のクスノキ。環境省巨樹巨木林データベースによると、幹周 3.55m、樹高 15m。
	206	後藤新平お手植えの松（２代目）	明治 43 年（1910）、鉄道院総裁後藤新平が山陰本線工事視察後に植樹。現在のものは 2 代目。
地質鉱物	207	浜坂温泉	昭和 53 年（1978）3 月、旧浜坂町役場前の県道で消雪工事のボーリング中に、地下約 50mのところで突然温泉が湧き出して発見されたもの。源泉は浜坂第一から第三の 3 つがあり、それぞれ昭和 54 年（1979）10 月、昭和 63 年（1988）12 月、平成 11 年（1999）3 月に掘削。第一は湧出温度 76.0 度・湧出 350ℓ（自噴量）、第二は湧出温度 73.5 度・湧出 370ℓ（動力揚量）、第三は湧出温度 75.5 度・湧出 350ℓ（自噴量）である。

■ 文化的景観

分類	番号	名称	概要
生活・生業・風土により形成された景観地	208	浜坂港（旧浜坂漁港）	昔の浜坂の港は、岸田川河口にあった小さな港であった。現在も船だまりが残り、往時をしのばせる。

■ 伝統的建造物群

分類	番号	名称	概要
宿場町・城下町・農漁村等	209	浜坂旧市街地（味原の小径）	清水町、老松町、本町、中本町、御屋敷町周辺は、明治期に酒造業、製糸業、縫針業などで栄えた商家や料亭、民家が建ち並ぶ。以前の面影は薄れてきているが、細い路地に入ると古い格子窓や白壁の旧家が見られる。商家の高い石垣が続く味原川沿いの道は「味原の小径」と呼ばれている。 県指定歴史的景観形成地区

自治会の区域における歴史文化・文化財の記録作成等の取組

・『「宇都野神社麒麟獅子舞保存会」結成 50 周年記念誌　保存会の歩み』
（平成 30 年 12 月 13 日、宇都野神社麒麟獅子舞保存会編集・発行）